

インフルエンザA型(H1N1)

<第16報>

2009年10月7日

HEADLINES

- ◆ 新型インフルエンザ・ワクチン接種の基本方針
- ◆ 国内の感染状況
- ◆ 政府方針を改定
- ◆ 基礎疾患のない死亡例

新型インフルエンザ・ワクチン接種の基本方針

厚生労働省は10月2日、新型インフルエンザA型(H1N1)のワクチン接種に関する基本方針を発表した。年度内に確保できるワクチンが、約7,700万人分であることから、下記の優先順位で接種を実施するという。

インフルエンザ患者の診療に直接従事する医療従事者(救急隊員を含む)

妊婦

基礎疾患*を有する者(この中でも、1歳~小学校低学年に相当する年齢の者の接種を優先)

1歳~小学校低学年に相当する年齢の者

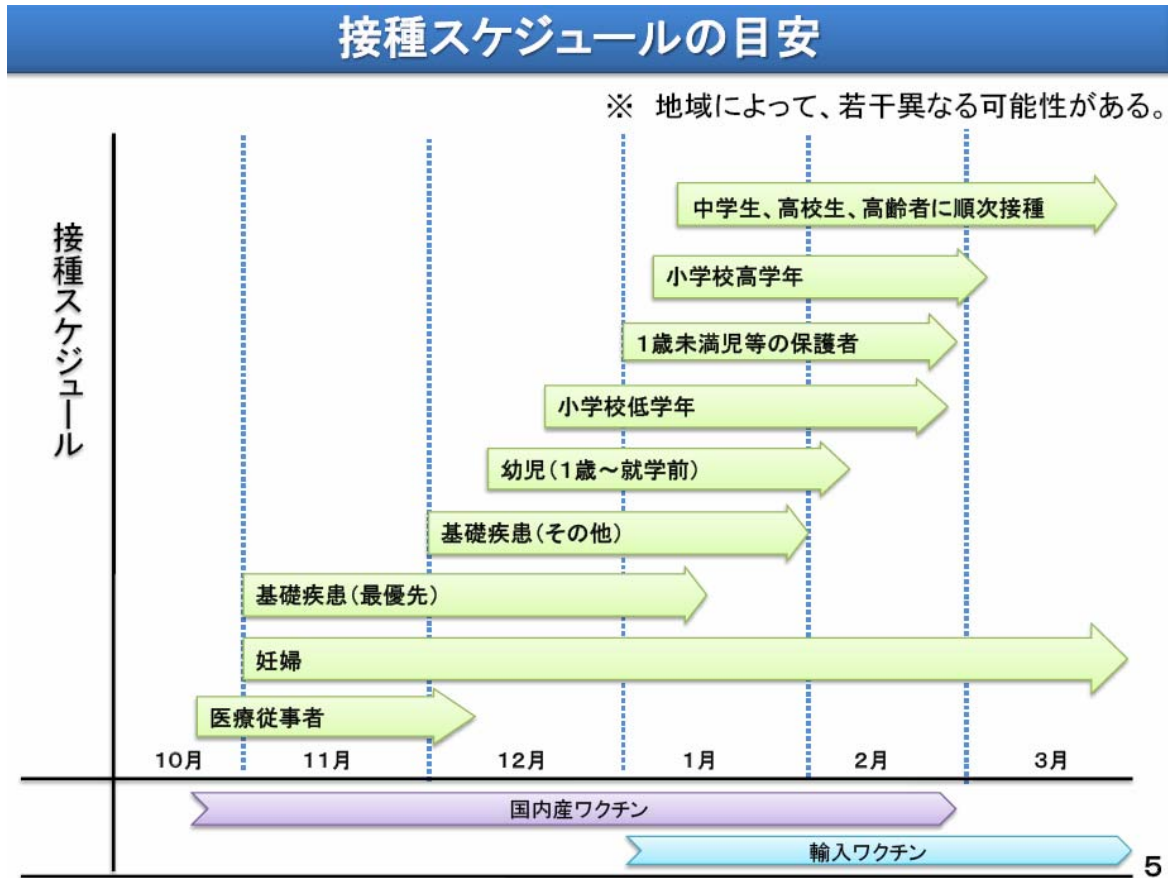
1歳未満の小児の保護者及び優先接種対象者のうち身体上の理由により予防接種が受けられない者の保護者等

~ に該当するのは約2,300万人。このグループの次に優先的接種を受けられるのは小学校高学年、中学生、高校生に相当する年齢の者及び65歳以上の高齢者となる(対象3,100万人)。

*対象となる基礎疾患

- 慢性呼吸器疾患
- 慢性心疾患
- 慢性腎疾患
- 慢性肝疾患
- 神経疾患・神経筋疾患
- 血液疾患
- 糖尿病
- 疾患や治療に伴う免疫抑制状態
- 小児科領域の慢性疾患

ワクチン接種は今年 19 日の週から開始する予定で、当初は国内産ワクチンを接種。その後、順次輸入ワクチンに移行していく。(表 1 参照)



【表 1】

出典:「今後の新型インフルエンザ対策についてーワクチン接種の基本方針」(厚生労働省 平成 21 年 10 月)

最優先患者の例:

慢性呼吸器疾患	気管支喘息患者と、肺気腫、慢性気管支炎を有し、継続して治療を受けているか、治療を受けていなくても経過観察のために定期的に受診している患者
慢性心疾患	日常的な身体活動で疲労、動悸、呼吸困難あるいは狭心症を生じる
慢性腎疾患	慢性維持透析患者、透析導入間近の慢性腎不全患者
糖尿病	インスリン療法を必要とする者、糖尿病患者で慢性心疾患、慢性腎不全などの併発疾病を有している者

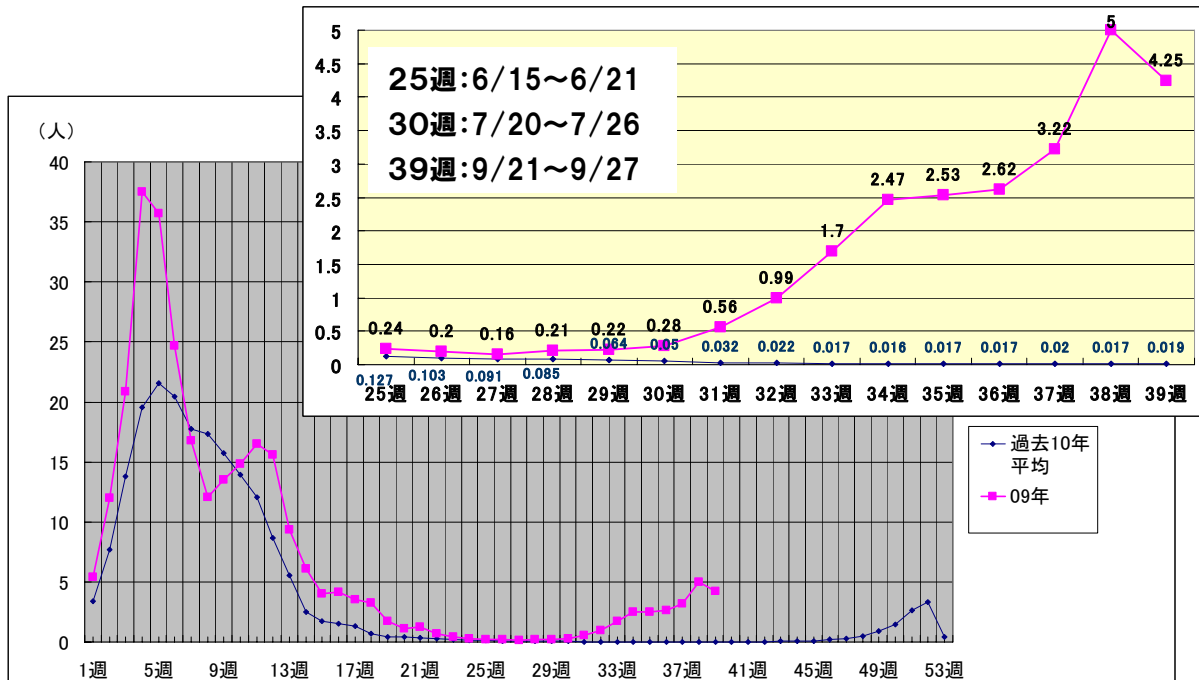
※基礎疾患のある方は、医師に相談されることをお勧めします。

国内の感染状況

新型インフルエンザ A (H1N1) の感染拡大が続いている。インフルエンザの全国の感染状況を示す定点観測によると、直近の第 39 週(9 月 21 日 ~ 27 日)の定点当たりの報告数は 4.25 で、前週の 5 よりは減少した。これは、前週より新たな感染者が減少したことを示す値だが、この週は前半が大型連休だったため、短期的に感染拡大が減速したとみられている。

それでも、この週の新規感染者数は全国で 24 万人に達したと推計されている。定点当たりの報告数は第 28 週 (7 月 6 日 ~ 12 日)以降続いており、各週に推計された新規感染者数の累計は

100万人を越えている。例年、季節性インフルエンザの流行する時期をこれから迎えるため、感染者の数は今後も増えるとみられ、局地的には急速に感染が広がる可能性もあるので注意が必要である。



政府方針を改定

新型インフルエンザの感染拡大が続いていることを受け、政府は1日付で「基本的対処方針」と「医療の確保、検疫、学校・保育施設等の臨時休業の要請等に関する運用指針」の改定版を発表した。これまでの方針はいずれも海外の感染状況、事例を基にした方針が示されていたが、今回の改定では国内の感染状況を踏まえた方針へと変更された。

「基本的対処方針」では下記の3点が重要だとして、国、地方公共団体、医療機関、事業者や関係団体、国民それぞれが役割を担う必要性を訴えている。

- 感染者の急激な増加の抑制
- 社会活動の停滞や医療機関の負担の低減
- 重症者への医療確保

「医療の確保、検疫、学校・保育施設等の臨時休業の要請等に関する運用指針(二訂版)」では医療の確保が求められている。

- 患者数の急激な増加に対応できる病床の確保と重症患者の救命のための体制整備
- 適切な院内感染対策と積極的な広報による基礎疾患患者等の感染防止対策の実施
- 重症患者・死亡者の把握、ウイルス性状の変化の探知、定点サーベイランスの実施
- 患者の急激な増加の防止、患者数増加のピークの抑制による社会活動の停滞や医療供給への影響の低減

詳細は下記厚労省ホームページをご覧ください。

(http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou04/inful_vaccine.html)

基礎疾患のない死亡例

福岡県で9月30日、新型インフルエンザに感染した40代の男性が死亡した。国内で新型インフルエンザの感染者が死亡したのは、疑い例も含めて20人目。死亡例の中には小学生の男児や、20代の女性など、若い犠牲者も出始め、基礎疾患のない人もいることから、季節性インフルエンザにはみられない健康な若者の死亡例が国内でも出始めている。今回のインフルエンザが強毒性ではないことから、一般的に危機意識が薄いとされている。しかし、今回のインフルエンザは海外でも健康な若年層が死亡している例が多数報告されていることから、警戒は怠れない。